シリーズ 探訪 わが町文化財 その88

昔のカイロ　温石

遺跡の発掘調査をすると、ごくまれに出土品の中から「温石（おんじゃく）」と呼ばれる石の道具が発見されることがあります。写真左は温石と考えられるもので、明恵上人生誕地（歓喜寺地区）の駐車場建設に伴う発掘調査で出土したものです。側面が丁寧に成形された方形をなしており、調査の結果から鎌倉時代のものであることが判明しています。

温石とは現在の携帯カイロにあたるものであり、温めた石を布などで包み込み、懐に入れて暖を取るものです。小さな穴が開いていることが多く、ひもを通して首から下げていたのではないかと考えられています。昔の修行僧が空腹をしのぐために温石を懐に入れていたことが転じて、懐石料理の「懐石」の語源にもなったという説があります。

写真の温石は、滑石（かっせき）という石が使われています。滑石とは、硬度1という最も軟質の岩石であり、非常に軟らかいため加工がしやすく、保温性に優れているという特徴があります。スベスベした手触りがあり、質感はロウソクに似ていることから蠟石（ろうせき）とも呼ばれています。

鎌倉時代には、滑石の特徴を生かして煮炊きに用いる石鍋が数多く作られていました。石鍋はどの地域でも作られたわけではなく、滑石が採取できる地域に限られており、主に長崎県や山口県が当時の生産地であることが知られています。そこで作られた石鍋は、西日本を中心とした日本各地の遺跡から発見されており、商品として流通していたことが判明しています。町内でも糸野地区の成道寺（じょうどうじ）周辺にかつて存在したとされる湯浅宗光館（ゆあさむねみつやかたあと）跡から採集されています（写真右）。

温石は、元は石鍋であったものが破損した後に形を変えて再利用されていることが多く確認されています。鎌倉時代における石鍋や温石などの滑石製品は、館や寺院など有力者が関係していたと考えられる遺跡から発見されることが多く、当時としては貴重な道具であったのでしょう。

滑石製の温石（左）と石鍋（右）

広告　町収入の一部とするため有料広告を掲載しています。

●〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野 2018-4
●有田川町役場企画調整課　TEL 0737 - 52 - 2111（代）
●E-mail　b.kikakuzaisei@town.aridagawa.lg.jp
●ホームページ URL　https://www.town.aridagawa.lg.jp

VEGETABLE OIL INK